

高速ネット回線の島で、 焼酎プロジェクトを支援する

フリーランスウェブデザイナー／ライター 藤原温子

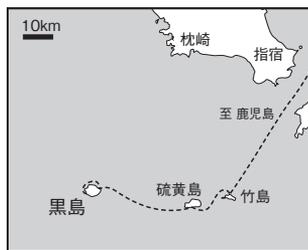
子牛の写真に惹かれて黒島に移住

私は、一年ちよつと前に黒島に移住してきました。もともと東京に二〇年住み、一〇年ほど何社かでウェブ制作を経験し、フリーランスになりました。最後の会社を退職するときには会社員をやり切ったと感じ、別の会社を退職してスキルを向上させながら仕事に取り組めるだろうかと自問し、結局フリーランスを選択するにしました。

それまで、大きなグループ会社やベンチャー企業、少数精鋭の会社の優秀な人たちと接する中で、技術面や質で長じることは難しいかもしれない、でもスペシャリストの方々が集まる場をつくったり、仕事を共有したりするプロジェクト管理には興味をもって取り組めると感じていました。

フリーランスになって半年後、通信環境さえあればどこでも仕事はできると気づき、生活コストを下げる必要もあり、移住先を探しました。なんとなく東京に居続けて動けなくなってしまう前に、これまでに経験のない自然が豊かな場所で見たいという冒険心もありました。

ITによる町おこしが盛んな徳島県神山町にも行ってみました。本で知って尊敬するデザイナーの方にもお会いし、若い移住者の皆さんと話せて楽しかったのですが、単身者の住まいや支援策が充実している三島村の移住制度に応募することにしました。「移住すると、子牛一頭または三〇万円がもらえる」という募集ページを目にした時、なんだか牛の写真が光ってみえて、ここに住んでみたい！ と思った記憶があります(結局、牛はもらいませんでしたが)。



黒島：三島村3島の中で最も大きな島。面積15.37km²、周囲20.1km、人口374人(平成30年7月末現在)。深く険しい山地が黒く見えることから黒島とよばれ、黒尾島の通称もある。島の東西に大里と片泊の2集落があり、傾斜を利用した肉牛の放牧やシイタケ栽培、大名竹などを特産としている。

助け合いの文化に生かされる

黒島は、お巡りさんやお医者さんも巡回で時々来るような小さな島です。移住したばかりのときは、島の方に「こんな何もないところによく来たね」とよく言われました。確かに人やお店は少ないですが、海を見られ、鳥が鳴き、少し歩くと滝の音が聞こえてきます。島の方と会えば少しお話ししたり、仕事の合間に畑を耕して、と毎日がのんびり忙しく、充実した日々を送っています。

黒島には専門の業者さんはいませんので、引越は役場の皆さんに、クーラーはそういった仕事の経験がある島の方に設置してもらいました。歯の治療やバイクの修理などは、フェリーで鹿児島市内まで行くこともあります。都会にはない不便さがありますが、経験値の高い島の周りの方や、役場の適切な対応などで、どうにもならない、という感じはありません。台風などの時は、前もって村内放送による注意喚起が何回もあり、避難所も開設されます。移住して初めての台風前には、近所の方がいろいろと説明してくれて、なぜか溜まっていた段ボールのゴミまでもっていつてくれたり、ありがたいうちも多いです。まだ大きなハプニングが起きていないだけなのかもしれませんが、ここでは全然問題なく生活していると感じています。

島には、助け合う文化があると思います。ばったり会った島の方に、野菜や魚などをいただき、料理の仕方まで教

えていただいたりします。運動会や歓迎会などには、皆さん当たり前のように参加されます。私も時々参加して、子どもたちから高齢の方、I・Uターンの方、学校の職員や畜産農家の方などと楽しくお話しできるのは、貴重な経験だと感じます。

老人会や婦人会、青年会などもあり、私も婦人会で老人会の皆さんの会食準備などを手伝うことがたまにあります。料理のスキルが追いつかず、人間関係で大変な部分もありますが、地域がチームで動いていることを実感します。

物差し自体の違いを感じることも多いです。島に欠かせ



焼酎用サツマイモ（ベニオトメ）畑でツル切り作業に励む黒島の皆さん。



「みしま村焼酎プロジェクト」のウェブサイト。

島の人たちに教えられたモノづくりの楽しさ

ない足としてバイクを買い、ヘルメットをどこに置くかという話をしていたとき、島の方に「カゴの中でいいんじゃない」と言われて、思わず「盗られるかも!？」と聞いてしまったら、「名前を書いておけばいいじゃない」と言われて、なんかもう感覚が全然違う！ って思いました。

少し前に、私が受託しているウェブ制作の仕事は何人かの島の方々に手伝ってもらった機会がありました。仕事の説明会では、夫婦で一台のパソコンで参加されたり、よくわからないと言いながら一所懸命理解されようとしていたり、こちらの軽い説明を聞いてその背景を前もって勉強されていたり。真摯に作業に取り組み姿に胸を打たれ、やり方や知識を教える私のほうが、逆に教えていただくことも多かったです。仕事との向き合い方に変な慣れや駆け引きもなく、「モノをつくる楽しさって、こういう感じだったな」という、原点に還ったような気がありました。もし、島の方々に協力いただけるなら、今後もこうした機会を設けていきたいです。

ただ、私の今までの感覚と比べると、島の物ごとの進め方は、マーケティングやプロジェクト管理などはほとんどシステム化されておらず、属人性も高く、フレームワークを学ぶ機会もほとんどない状態です。島に新しい産業が生まれづらい原因はこういうところにあるのかもしれない。

「焼酎プロジェクト」でウェブサイトを担当

移住前から、村のウェブサイトをじっくりに携わりたい、と役場の方にお話していましたが、最近、焼酎の地域おこしプロジェクトに携わることになりました。老人会の皆さんがつくり続けてきたサツマイモ（ベニオトメ）と、豊富な水を使った焼酎「みしま村」「メンドン」を、黒島に新設される村営の焼酎蔵で、地域おこし協力隊の杜氏がつくるという官民一体の島おこしになります。

私は、ブログの開発と運用を担当することになり、島の方にお話をうかがったりして、記事にしています。先日公開したばかりですが、ネットで「焼酎みしま村」と検索してもらおうと上位が上がってきます。

取材にはとても好意的な方が多く、こちらの予想を何倍も超えた親切さで答えようとしてくださいます。お話を聞きたいと伝えると、夜、呑み会を開いてくださり、前年に醸した焼酎を吞ませてもらい、その流れで庭の畑の開墾から、食用サツマイモの苗の植え付けまでやってくださったということがありました。島の方は、畑のことや日々の作業について、とても詳しく知識も豊富、仕事もとても丁寧です。他にもいろいろな方にブログ記事に協力いただいています、島外の関係者の方にもお世話になる予定です。

こうした方々に少しでもお返しができるように、つたな

いかもしれないですが、自分のノウハウや知見で成果を出せるように頑張っていきたいと思っています。

自分で仕事を生み出せる方、ぜひ黒島へ

黒島に住んでみて、東京での生活費の高さや部屋の狭さなどから解放され、本当に楽になりました。三島村の島々にはプロードバンドが敷かれ、料金は月に三〇〇円強、ネットを使う作業も快適です。島暮らしに興味がある方は、思い切つて島に来てみれば良いと思います。島にとっても新しい風になるだろうし、私も知り合いを増やしたい。興味をもたれた皆さん、遊びに来てくださると嬉しいです。

仕事は、自分で生み出さないといけないと思いますが、経験や立場の違いで生まれる仕事も多いのではと感じています。観光に関する事業やネットを使った小売り販売など、島にはまだ仕組みがない分野もあるので、自分なりのポジションが確保できれば、やれることも多いのではないのでしょうか。

ときどき東京にも仕事などで出掛けるのですが、自分にとっては、人が少ない自然のなかで生活することも、都会の便利さや大勢の中で切磋琢磨する感覚も、どちらも必要です。もっと島と都会を気軽に行き来できるような生活ができればと考えています。これから試行錯誤しながら、新しい仕事も少しずつ増やしていきたいと思います。

行政からのメッセージ

◎ブロードバンドを活用した起業家に期待

三島村に移住すると、もれなく子牛1頭が支給されます。平成2年から継続されている移住者に対する村独自の支援制度です。

もともと、台風などの自然災害の影響を受けにくいことから、村の基幹産業として盛んな畜産業への新規就農支援の一環として始まった制度です。もらった子牛は、「食べないで」母牛(成雌牛)になるまで育成し、種付けして産まれた子牛を市場へ出荷します。農家として経営を行ってもらうことで、一時的に助成金を受け取るより、何倍もの利益をもたらしてくれるのです。これだけでもよく考えられた制度ですが、この制度を考え出した当時の役場職員が偉かったのは、広告効果の大きさを念頭に入れていたことだと思います。「子牛1頭プレゼントします」なんて、半端ないインパクトがありますよね。実際、このことに興味を持たれて移住の相談をされる方が多くおられますし、相談が途切れないのはこのおかげです。

藤原さんは、そんな「移住すると、子牛1頭または30万円がもらえる」という募集ページを見て、移住相談の電話をくれたひとりです。定住助成金の申し込みでは、移住後の生活設計、事業計画、資金計画書の提出を必須としています。フリーランスのweb制作を事業の柱としている藤原さんは、村にとっても願ってもない人材でした。

三島村は極端に交通事情が悪く、鹿

児島本土と島々を結ぶ唯一の交通手段は、週に4往復する村営の「フェリーみしま」に限られます(一部の島にはセスナ機が不定期運航)。そこで、平成21年度に国の交付金を活用し、約28億5000万円の事業費で都市部との情報格差の解消を目的としたブロードバンド整備を行いました。ブロードバンドは医療、教育、情報発信、観光など地域振興に欠かせないもので、情報ツールの活用は村にとってもさまざまな分野でますます重要になってきています。藤原さんのように、地方でもICTという新たな分野で生業として成功すれば、地域の雇用創出として新たな経済効果が期待できます。いま、藤原さんともうひとりの計2人が、ブロードバンドを活用しながら自立を目指して頑張っています。

今年7月からは、藤原さんに「焼酎プロジェクト」(特区制度を使った公設公営の焼酎蔵建設・運営)の一員として加わってもらいました。平成31年4月の新酒発売に向けて、芋農家、杜氏、地域住民が一体となって厳しい自然環境の中で困難なプロジェクトに挑んでいる姿、タイムリーな情報を発信して「焼酎みしま村」のファンを増やし、焼酎蔵を核とした地域振興につなげるのがねらいです。

今後、藤原さんのwebデザイナーとしての本業の成功はもちろんですが、私たち行政と連携して、後に続く移住者の育成支援や、新鮮で質の高い地域情報の発信など、活躍を期待しています。

(三島村役場 定住促進課長 日高真吾)

藤原温子(ふじわら よしこ)

兵庫県姫路市生まれ。東京で20年くらい生活し、10年ほどweb制作業務に携わる。フリーランス3年目、単身で黒島に移住して1年と少し。現在、「みしま村焼酎プロジェクト」のブログ開発と運用業務などを担当。